

令和7年度

# 「運営に関する計画」

最終反省

大阪市立佃中学校

令和8年2月

## 大阪市立佃中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

前年度は、学力においてチャレンジテスト・チャレンジテスト plus では、すべての教科において大阪府・大阪市平均を前後していたが、学年により一部、成績が振るわない教科があり、指導内容等を早急に改善する必要がある。全国体力・運動能力、運動等習慣調査では、男子は全国平均を下回り、今後継続した運動習慣の確立を目指す必要がある。女子は全国平均を上回る種目が多く、着実に体力の向上が見られる。

保護者、地域の協力と教職員の日々の地道な実践の積み重ねで、生徒の規範意識は高く、落ち着いた環境で学校教育活動に取り組んでいる。一方で、不登校生徒の増加が本校の課題であり、保護者、関係諸機関と連携を取り、模索しながら個々の生徒に寄り添う指導に努めている。生徒の豊かな心の育成のためにも、学校教育活動を通じ、人を思いやる心など自尊感情をさらに高めたい。

**中期目標****【安全・安心な教育の推進】****基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現**

1. 令和7年度末の校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を、85%以上にする。
2. 毎年度末の校内調査において、不登校生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。
3. 令和7年度末の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、90%以上にする。

**基本的な方向2 豊かな心の育成**

4. 令和7年度末の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、71%以上にする。
5. 令和7年度末の校内調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、71%以上にする。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】****基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上**

1. 令和7年度の校内調査の「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に答える生徒の割合を35%以上にする。
2. 令和7年度中学校チャレンジテストの平均正答率2割以下の生徒を、いずれの学年も令和3年度よりも5ポイント減少させる。
3. 令和7年度の大阪市英語学力調査の中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を、70%以上にする。

### 基本的な方向5 健やかな体の育成

4. 令和7年度の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を70%以上にする。
5. 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和3年度より0.1ポイント向上させる。（※全国平均を1とした割合）
6. 規則正しい生活を身に付けている生徒の割合（「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を令和7年度調査において80%以上にする。

#### **【学びを支える教育環境の充実】**

### 基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

1. 令和7年度末には授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の75%以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日を除く）

### 基本的な方向7 人材確保・育成としなやかな組織づくり

2. 令和7年度末には年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を60%以上にする。

### 基本的な方向8 生涯学習の支援

3. 令和7年度末の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、76.5%以上にする。

### 基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進

4. 令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、令和3年度より10ポイント増加させる。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

#### **【安全・安心な教育の推進】**

##### **学校園の年度目標**

1. 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を93%以上にする。
2. 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度(7.05)より減少させる。
3. 令和7年度末の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、90%以上にする。
4. 令和7年度末の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。
5. 令和7年度末の校内調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、71%以上にする。

## 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

### 学校園の年度目標

1. 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を36%以上にする。
2. 中学生チャレンジテストにおける国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。
3. 中学生チャレンジテストにおける数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。
4. 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を70%以上にする。
5. 年度末の校内調査における「運動体を動かす遊びを含むやスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を70%以上にする。
6. 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和3年度（男子44.60、女子48.85）より0.1ポイント向上させる。（※全国平均を1とした割合）
7. 規則正しい生活を身に付けている生徒の割合（「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を令和7年度調査において80%以上にする。

## 【学びを支える教育環境の充実】

### 学校園の年度目標

1. ICTの活用に関する目標  
令和7年度末には授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の75%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日を除く）
2. 教職員の働き方改革に関する目標  
年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を60%以上にする。
3. 令和7年度末の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、76.5%以上にする。
4. 令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、令和3年度（65.2%）より10ポイント増加させる。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 【学びを支える教育環境の充実】

##### 学校園の年度目標

2の年度目標において、おおむね指標を上回っている。「(「年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析」欄参照) 次年度は、本年度の取組を検証し問題点や改善点を共通認識し、現在行っている生徒への働きかけや組織的対応を改善し、より個々の生徒の状況に応じた指導を丁寧に行い、さらなる向上を目指す。

3、4、5の年度目標において、指標を若干下回った。また、1の年度目標において、指標を下回った。「(「年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析」欄参照) 本年度の取組を検証し問題点や改善点を共通認識して、次年度は指標を上回るよう計画的に取り組みを実践していく。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

##### 学校園の年度目標

7の年度目標において、おおむね指標を上回っている目標と、下回っている目標あった。「(「年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析」欄参照) 次年度は、現在行っている生徒への働きかけを改善し、さらなる向上を目指す。

1、3の年度目標において、指標を若干下回った。また、2、4、5、6の年度目標において、指標を下回った。「(「年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析」欄参照) 本年度の取組を検証し問題点や改善点を共通認識して、次年度は指標を上回るよう計画的に取り組みを実践していく。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

##### 学校園の年度目標

1、3の年度目標において、指標を下回った。「(「年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析」欄参照) 本年度の取組を検証し問題点や改善点を共通認識して、次年度は指標を上回るよう計画的に取り組みを実践していく。

2、4の年度目標において、指標を上回っている。「(「年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析」欄参照) 次年度は、現在行っている取り組みを再検討し改善して、さらなる向上を目指す。

## 大阪市立佃中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <p>1. 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、<b>最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を93%以上にする。</b></p> <p>2. 年度末の校内調査において、<b>不登校生徒の在籍比率を前年度(7.05)より減少させる。</b></p> <p>3. 令和7年度末の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、<b>肯定的に答える生徒の割合を、90%以上にする。</b></p> <p>4. 令和7年度末の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、<b>肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。</b></p> <p>5. 令和7年度末の校内調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、<b>肯定的に答える生徒の割合を、71%以上にする。</b></p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容1【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「いじめについて考える日及びいのちについて考える日」の全校集会時に、教材を活用して生徒にいじめ(いのち)についてより深く考えさせる取り組みを実施する。</li> <li>命や人権の尊さを道徳、性教育等の授業等、様々な行事や取組を通じて、自尊感情を高め、自身とともに他者も大切できる集団づくりに努める。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度末の校内調査において、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」項目に対して、<b>最も肯定的な「思う」と回答をする生徒の割合を93%以上にする。</b></li> </ul>	B
<p>取組内容2【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域や専門的な関係諸機関と連携し、生徒一人ひとりに合った対応をすることで、不登校生徒を減少させる。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度末の校内調査において、<b>不登校生徒の在籍比率を前年度(7.05)より減少させる。</b></li> </ul>	A
<p>取組内容3【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が主体となる避難訓練を年間2回実施する。</li> </ul>	B

<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会が全校生徒に対して、身近な地域の防災教育を実施する。</li> </ul>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度末の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、<b>肯定的に答える生徒の割合を、90%以上に</b>する。</li> </ul>	
<p>取組内容4【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業、学校行事、部活動において所属感を感じ、達成感をもてるような取組を実践する。</li> </ul>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度末の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、<b>肯定的に答える生徒の割合を、80%以上に</b>する。</li> </ul>	
<p>取組内容5【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特活、道徳、総合的な学習、キャリア学習において、全学年で夢や目標につながるきっかけになるような取組を実施する。</li> </ul>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度末の校内調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、<b>肯定的に答える生徒の割合を、71%以上に</b>する。</li> </ul>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p><b>取組内容1について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎学期末にいじめアンケート、2学期に教育相談を実施した。また、全校生徒に大阪市のLINE相談、一人一台端末の相談機能を活用し、いじめの早期発見と対応に努めている。</li> <li>・4月には梅田少年サポートセンターより講師をお招きし、1年生対象に「SNS安全講話」を行った。</li> <li>・5月「いじめについて考える日」及び「いのちについて考える日」において、各教室でのオンライン集会で講話を行ったのち、いじめについて考える映像を視聴した。また、その感想を通信に載せ全校生徒に配布し、振り返りを行った。</li> <li>・11月には、全学年を対象にNTT docomoによる「スマホSNS安全講話」を実施し、オンライン上でのコミュニケーションの取り方や相手に対する思いやりについて学んだ。</li> <li>・3月には、外部講師を招いて、1年生対象の人権講話「人を傷つけない笑いを考える」を実施予定である。</li> <li>・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」の項目に対して、<b>最も肯定的な回答は77.6%であり、指標である93%以上を下回った。</b>また、「だいたいそう思う」という回答を含んだ肯定的な回答は95.6%だった。</li> </ul> <p><b>取組内容2について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクリーニング会議Ⅰ、Ⅱを学期ごとに実施し、区役所、SSW、SC等と密に連携し、一人ひとりの課題に応じた対応を検討、実践している。現在、サテライト（1名）、子ども自立支援アシスト（4名）を利用している。また、校内にSSRを設置し、不登校生徒の学ぶ環境、居場所づくりに努めている。現在12名の生徒が利用登録している。</li> <li>・1学期末に、全校生徒にアセスアンケート（学校適応感尺度）を実施し、その結果を分析、</li> </ul>	

一人ひとりの状況に合った対応について検討する校内研修会を年間2回実施した。

- ・ **今年度、不登校生徒の在籍比率は6.84であり前年度(7.05)より減少した。**

#### 取組内容3について

- ・ 今年度は「『おもい』でつながる防災」をテーマに、防災教育に取り組んでいる。生徒の防災意識と自己肯定感の向上を目的とし、防災教育の年間指導を計画し、避難訓練を2回実施した。
- ・ 7月の避難訓練では、西淀川区役所の地域支援課と連携し、能登半島地震の講話、全校生徒による防災ワークショップを実施した。12月の避難訓練では、輪島市立輪島中学校の生徒とオンラインで交流を行った。
- ・ 1月には西淀川区役所と連携し、全学年対象の防災講話を行った。阪神淡路大震災当時の佃地域の様子を学んだり、能登半島地震の被災者の方にお話を伺ったりすることができた。
- ・ 地域のジュニア防災リーダーの活動に、本校の生徒会が参加している。今後は有志を募り、活動を広めていく予定である。
- ・ 「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」という項目について、**肯定的な回答は87.6%であり、指標である90%以上をわずかに下回った。**

#### 取組内容4について

- ・ 1年生は一泊移住、3年生の修学旅行、全校生徒での万博校外学習、文化発表会、体育大会など、子どもが集団での役割を明確に意識し、それぞれが達成感をもてるよう取組を実践した。
- ・ 大阪支部活動指針プレイヤーズファーストに基づいて、生徒の自主性・主体性をはぐくむ部活動指導を行っている。
- ・ 「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、**肯定的な回答は、76.1%であり、指標である80%以上をわずかに下回った。**

#### 取組内容5について

- ・ キャリア教育として、2年生では職場体験、3年生で高校出前授業体験学習を実施した。
- ・ 3学期には、1年生で職業講話、2年生で高校調べなどの取組を実施した。
- ・ 「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について**肯定的な回答の割合は67.6%であり、指標である71%以上をわずかに下回った。**

### 次年度への改善点

#### 取組内容1について

いじめの課題について、日ごろの学級活動や集会、情報モラル授業、人権教育などの多角的な方面から取組を継続し、未然防止に取り組んでいく必要がある。

#### 取組内容2について

不登校の課題については、学年が上がるにつれ、集団に不適應を感じることで増加する傾向がある。アセスの客観的なデータも活用しながら、それぞれの課題に合った対応を学校だけではなく関係諸機関とも連携して改善に努める。

#### 取組内容3について

防災教育について、区役所等の地域との連携が、今年度大きく進んだ。今後もリーダー層の育成を目指し、自己肯定感と他者を思いやる心の成長を目指して取り組んでいく。

#### 取組内容4について

子どもたちが個々に、やりがいや達成感をもてるような学校・学年行事を実施し、自己肯定

感を育み、集団の所属感に安心できるような集団づくりに努めていく必要がある。

**取組内容 5 について**

キャリア学習について、今後さらに地域と連携し、地域の特徴を活かした出前授業や職業講話を実践していく必要がある。

## 大阪市立佃中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <p>1. 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、<b>最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を36%以上にする。</b></p> <p>2. 中学生チャレンジテストにおける国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、<b>いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。</b></p> <p>3. 中学生チャレンジテストにおける数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、<b>いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。</b></p> <p>4. 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合 <b>(4技能) を70%以上にする。</b></p> <p>5. 年度末の校内調査における「運動 体を動かす遊びを含む やスポーツをすることは好きですか」に対して、<b>最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を70%以上にする。</b></p> <p>6. 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、<b>令和3年度(男子44.60、女子48.85)より0.1ポイント向上させる。(※全国平均を1とした割合)</b></p> <p>7. 規則正しい生活を身に付けている生徒の割合(「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、<b>肯定的な回答をする生徒の割合を令和7年度調査において80%以上にする。</b></p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容1 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>・学校生活全般(各教科・道徳、総合的な活動、学級活動や委員会活動)において、グループワークを取り入れた課題や活動を積極的に取り入れ、周りの意見を聞き、情報をまとめ、自分の考えを言葉や文章で表現できる機会を作る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・令和7年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、<b>最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を36%以上にする。</b></p>	B
取組内容2 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】	

<p>・国語科において、全学年でチームティーチングを行い、積極的にICTを活用し、わかりやすい授業実践に取り組む。</p>	B
<p>指標</p> <p>・令和7年度の中学生チャレンジテストにおける国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、<b>いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。</b></p>	
<p>取組内容3【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>・数学科において、ICTを活用した授業展開、チームティーチング、放課後等の時間を利用した学習会を行い、基礎の定着と学力向上を図る。</p>	B
<p>指標</p> <p>・令和7年度の中学生チャレンジテストにおける数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、<b>いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。</b></p>	
<p>取組内容4【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>・英語科において、ICTの積極的な活用のほか、チームティーチング・分割授業・習熟度別授業を状況に応じて行い、英語でのやり取りや発表を通して、基礎の定着と自己表現力の育成を図る。</p>	B
<p>指標</p> <p>・令和7年度の大阪市英語学力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学校3年生の割合<b>(4技能)を、70%以上にする。</b></p>	
<p>取組内容5【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>・保健体育の授業を充実させ、運動に対する興味関心を高める。体育的行事では、様々な競技を実施し運動に対する苦手意識を払拭させる。昼休みにはボール貸し出しなどを積極的に行い、運動する機会を増やす。</p>	B
<p>指標</p> <p>・令和7年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、<b>最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を70%以上にする。</b></p>	
<p>取組内容6【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>・保健体育科の授業(体育的行事を含む)を通して体力全般を高め、特に課題である全身持久力、柔軟性の記録を向上させる。スポーツテストの際には、全国平均を明記し、生徒自ら目標を明確に設定し、その目標を超えられるようにペア学習などを用いて実施させる。</p>	B
<p>指標</p> <p>・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、<b>令和3年度(男子44.60、女子48.85)より0.1ポイント向上させる。(※全国平均を1とした割合)</b></p>	
<p>取組内容7【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>・「ほけんだより」の発行や食育などにより規則正しい生活習慣の重要性を改めて考えさせる。また、衛生委員会等の活動で生徒主体での取り組みを通して自分自身の課題に気づき、改善する自己管理能力を身につけられるように指導する。</p>	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規則正しい生活を身に付けている生徒の割合(「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、<b>肯定的な回答をする生徒の割合を令和7年度調査において80%以上にする。</b>)</li> </ul>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p><b>取組内容1について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間や各教科の授業、道徳の授業において、対話的な活動を多く取り入れるようにすることで、校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、<b>最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合が34.2%で、指標である36%以上を達成できなかった。</b></li> </ul> <p><b>取組内容2について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年で習熟度別授業・TTを実施し、必要な生徒に支援を行った。また、ICTを用いて授業を行い、授業内容の定着を図った。<b>令和7年度の中学生チャレンジテストにおいて3年は、前年度より3.8ポイント下降していて、指標である「いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる」を達成できなかった。</b></li> </ul> <p><b>取組内容3について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年で習熟度別授業・TTを実施した。単元により、デジタル教科書などのICTを用いた授業を展開した。また、定期テスト前や夏季休暇中に、学習会を開き、学習内容の復習や基礎の定着を図ったが、<b>令和7年度の中学生チャレンジテストにおいて3年は前年度より2.8ポイント下降していて、指標である「いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる」を達成できなかった。</b></li> </ul> <p><b>取組内容4について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを積極的に取り入れ、授業だけでなく家庭学習においてもタブレットを用いた調べ学習や音読学習・反復練習を実践した。また、すべての学年でTT・習熟度別授業を実施し、生徒の習熟度に応じて個々に関わり、フォローしていくことで、基礎基本の定着を図ったが、<b>C E F L A 1レベルを有する3年生の割合は60.5%であり、指標である70%以上を達成できなかった。</b></li> </ul> <p><b>取組内容5について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、<b>最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合は55.5%で、指標である70%以上を達成できなかった。</b></li> </ul> <p><b>取組内容6について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度(男子40.67、女子45.89)で、<b>男子は指標を3.97下回り、女子は2.96下回り達成できなかったが、課題である全身持久力においては男女ともに指標を上回ることができた。</b></li> </ul> <p><b>取組内容7について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ほけんだより」の発行や衛生委員会の生徒主体の活動で生活規則正しい生活習慣の重要性を改めて考えさせることができた。</li> </ul>	

- ・「朝食を毎日食べていますか」の項目では88.8%の肯定的回答を得られた。
- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目では肯定的回答が67.0%になり、この項目では目標が達成できなかった。

#### 次年度への改善点

##### 取組内容1について

・各教科や道徳、学級活動や生徒会・委員会活動において、生徒主体の話し合い活動を可能な限り取り入れた。生徒が自分の意見を述べ、他の意見をしっかり聞くということが習慣化され、個々の能力向上につながる取り組みを行った。次年度は、ICTを利用することで、より生徒自身が、意見を発表しやすい、考えをまとめやすくなるように取り組むことを課題とする。

##### 取組内容2について

・国語科では、全学年でTTを実施したが、習熟度授業を実施することができなかった。次年度は、一人ひとりの実態に応じた指導を実践していくこと、定期的な補習を実施することを課題とする。

##### 取組内容3について

・数学科では、全学年で習熟度別授業・TTを実施し、一人一人の学力に応じた指導を行った。また、定期的に補習を実施することで基礎学力の向上を図った。次年度は、総合的読解力の向上につながる教材研究を進め、各学年で実践していくことを課題とする。

##### 取組内容4について

・今年度実施した学習実践を分析し反省を踏まえたうえで、学力向上に向けた個に応じた指導と計画的な習熟度別授業を来年度、展開していく。

##### 取組内容5について

・体育の授業内で記録の更新などを可視化させ、成功体験や生徒間の競争意識を持たせ自主的・積極的に運動に向き合う環境を設定する。

##### 取組内容6について

・授業内において、運動量を確保した授業展開を行っていく。

##### 取組内容7について

・「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目では目標が達成できなかったため次年度に向けての課題である。

・「ほけんだより」の発行や食育などにより自分自身の課題に気づき、改善する自己管理能力を身につけられるように指導を続けていきたい。

## 大阪市立佃中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <p>1. ICTの活用に関する目標 令和7年度末には授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、<b>年間授業日の75%以上にする(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日を除く)</b></p> <p>2. 教職員の働き方改革に関する目標 年次有給休暇を10日以上取得する<b>教職員の割合を60%以上にする。</b></p> <p>3. 令和7年度末の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、<b>肯定的に答える生徒の割合を、76.5%以上にする。</b></p> <p>4. 令和6年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、<b>肯定的に答える保護者の割合を、令和3年度(62.5%)より10ポイント増加させる。</b></p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容1【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>・ICT委員会を中心に、教員向けの校内ICT研修を実施し、GoogleWorkspaceやChromebookを活用した学習活動を推進する。</p> <p>指標</p> <p>・令和7年度末には授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、<b>年間授業日の75%以上にする(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日を除く)</b></p>	C
<p>取組内容2【基本的な方向7 人材確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>・ICT機器を活用して、成績処理、提出書類等事務作業の効率化を進める。SSSの協力により印刷業務等の効率化を図り、業務時間の短縮を推進する。行事・会議等を、簡略化及び廃止を含めて見直しを進める。</p> <p>指標</p> <p>・年次有給休暇を10日以上取得する<b>教職員の割合を60%以上にする。</b></p>	B
<p>取組内容3【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>・生徒にとって魅力ある本が読める環境を作り、学級文庫などを設置し、朝の読書の時間を充実させ、図書館ニュースを月一回発行し、啓発する。</p> <p>指標</p>	C

<p>・令和7年度末の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、<b>肯定的に答える生徒の割合を、76.5%以上にする。</b></p>	
<p>取組内容4【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 ・ホームページなどで地域や家庭に、学校生活や行事などの活動や成果を発信していく。</p>	
<p>指標 ・令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、<b>肯定的に答える保護者の割合を、令和3年度(62.5%)より10ポイント増加させる。</b></p>	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p><b>取組内容1について</b> 生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数は5月から12月までの累計で26.1%となり、目標を達成できなかった。ただし月別平均では前年度よりも活用率の高い月が多く、月平均が80%を超える月もあった。(7月-81.9%)今年度は従来の学習者用端末の回収、および新端末の配備があり、新端末配備後の11月、12月の活用率は前年度を上回った。Chromebookを活用した学習活動については広く教員に浸透しており、重要な教材の選択肢の一つとなっている。</p> <p><b>取組内容2について</b> ICT機器やSSSを有効活用することで、業務に関する負担を軽減する環境を整えた。また、学校閉庁日を夏季休業期間中に4日、夏季休業期間以外に1日(冬季休業期間中)設定したことで、<b>指標である年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を、1月現在で50%以上にする</b>ことができた。</p> <p><b>取組内容3について</b> 学級文庫を設置し、図書館ニュースを月1回発行したが、<b>学校アンケートの「読書が好きだ」に対する回答は、肯定的な回答が64.6%にとどまった。</b>普段から頻繁に図書室に来館している生徒は継続的に来館しているが、日頃あまり本を手にとらない生徒にとっては、図書室へ足を運ぶことが億劫になっていることもあり、本や図書室に対する興味を向上させるまでには至らなかった。</p> <p><b>取組内容4について</b> ホームページ、学年通信等で地域や家庭に、学校生活や行事などの活動や成果を発信したすることで、<b>肯定的に答える保護者の割合が82.7%となり、指標である「令和3年度(62.5%)より10ポイント増加させる。」を達成</b>することができた。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p><b>取組内容1について</b> 教材に学習者用端末を利用することは多くの授業者にとって有効な選択肢となっているため、授業での継続的な活用は今後も見込まれる。更なる活用率の向上を目指すには、それぞれの教科において対話型などの非講義型の学習形態の比率を高める必要がある。</p> <p><b>取組内容2について</b> 次年度も継続して、ICT機器の活用やスクールサポートスタッフの協力体制を進め、効率化を図り、業務時間の短縮を推進し、学校閉庁日の設定を増やすことで、教職員が年次有給休暇を取得しやすい環境を整えていく必要がある。</p>	

**取組内容 3 について**

少しでも多くの生徒が本や読書を楽しむことができるよう、文化委員を中心として図書室の活用の仕方を生徒とともに考えるなど、本への興味・関心の向上を図る。

**取組内容 4 について**

来年度も、地域が課題ととらえている防災活動に学校として積極的に参加することで、学校、家庭、地域の3者が連携して活動していることを保護者に認知してもらい、肯定的にとらえる保護者の割合を増やしていきたい。